

令和三年第二回薩摩川内市議会定例会 施政方針と予算の概要

一 はじめに

令和三年第二回市議会定例会に当たり、市政の状況並びに施策に関する所信の一端を申し上げますとともに、提案いたしました令和三年度当初予算案等の概要を御説明し、議員各位並びに市民の皆様への御理解と御協力を賜りたいと存じます。

まず、年始恒例の消防出初式に関しましては、川内及び下甕の二会場は大雪のため中止となり、上甕についても、地元関係者のみによる開催となりました。準備に当たられた関係者の皆様の御労苦に対し、深く感謝を申し上げますとともに、来年は、新春にふさわしい活気あふれる式として実施されますことを強く祈念するものであります。

先月十日には、オープン間もないSSプラザせんだいにおいて、実行委員会主催の成人式が開催されました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、午前・午後の二部構成とするなど、感染防止対策を徹底する中、厳粛かつ和やかに執り行われました。

実行委員長の宮原百香さんからは、コロナ禍において、今まで当たり前前だと思っていた「日常への感謝」の気持ちと、「希望に満ち

た未来」を自らの力で切り拓いていこうとの強い決意が述べられるとともに、参加者に対し、式典終了後の懇親会を控えることなど感染拡大防止の呼び掛けも行われました。

先月二十二日には、急速な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、県内の医療提供体制がひっ迫する恐れがあったことから、鹿児島県は「感染拡大警報」を発令し、感染状況の段階をステージ三に引き上げました。また、本市を含む県内五市の飲食店に対し、営業時間の短縮の要請もなされました。

その後、様々な指標に改善が見られたことから、今月七日には「感染拡大警報」が解除され、十五日には、感染状況の段階がステージ二に引き下げられましたが、今なお予断を許さない状況にあります。市民の皆様におかれましては、引き続き、緩むことなく、基本的な感染防止対策を徹底してくださいますようお願いいたします。

他方、市においては、先月十五日、新型コロナウイルスワクチン接種に向けた準備を進めるため、庁内に「新型コロナウイルスワクチン接種準備プロジェクトチーム」を設置し、さらに、今月九日には、ワクチン接種を推進するための方策を官民一体となって審議するため、川内市医師会、薩摩郡医師会、川薩保健所など九団体から成る「薩摩川内市新型コロナウイルスワクチン接種調整会議」を設置いたしました。

なお、先月二十七日の臨時会において、新型コロナウイルスに関する経済対策とワクチン接種関連の予算を可決いただいたところであります。

多くの市民を対象として一斉にワクチン接種を行う過去に類例のないプロジェクトであり、様々な課題が想定されます。この調整会議を中心に、関係機関と緊密に連携しながら、市内でのワクチン接種が円滑に行われるよう、全力を傾注する考えであります。

二 施策の概要

第二百四回通常国会の施政方針演説において、菅義偉内閣総理大臣は、「一人ひとりが力を最大限発揮し、互いに支え、助け合える、『安心』と『希望』に満ちた社会」の実現を訴え、「国民の命と健康を守り抜く。まずは『安心』を取り戻すため、世界で猛威をふるい、我が国でも深刻な状況にある新型コロナウイルス感染症を一日も早く収束させる」とし、「私自身もこの闘いの最前線に立ち、都道府県知事はじめ自治体関係者とも連携しながら、難局を乗り越えていく決意」であると述べられました。

その上で、「新型コロナウイルス対策」、「東日本大震災からの復興、災害対策」、「我が国の長年の課題に答えを」、「地方への

人の流れをつくる」、「少子化対策と社会保障の将来」及び「外交・安全保障」の六本柱で政策を推進するとされています。

特に、「東日本大震災からの復興、災害対策」では「防災・減災、国土強靱化」の推進を、また、「我が国の長年の課題に答えを」では、「グリーン成長戦略の実現」と「デジタル庁の創設」により「国全体のデジタル化」を推進すると述べられています。

さらに「地方への人の流れをつくる」では「農林水産業を地域をリードする成長産業とすべく、改革を進め」つつ、観光立国及び東京一極集中の是正などにより地方の活性化を図り、また、「少子化対策と社会保障の将来」では、「未来を担う子どもからお年寄りまで全ての人が安心できる社会保障への改革」を進め、「不妊治療の保険適用」など、「結婚や出産、子育てを希望する方々の声に丁寧に耳を傾け、一つひとつの望みを実現」すると述べられています。

本市においても、新型コロナウイルス感染症への対応はもとより、人口減少、少子高齢化への対応は喫緊の課題です。引き続き、移住・定住の促進や少子化対策を積極的に推進するとともに、コロナ禍の収束や東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等の社会状況及び国・県の動向を的確に見極めながら、「コロナ復興」を掲げ、地域経済の再生に官民一体となって取り組む必要があります。

また、社会保障経費、公共施設の維持費等の増加により、今後の

財政運営は、なお一層厳しい状況になると予測されており、健全な行財政運営にも努めていく必要があります。

このような認識の下、本市の令和三年度の主要施策につきましては、新たな行政課題に適切に対応していくとともに、選択と集中により施策の推進を図って参ります。

まず、新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、高齢者施設や障害福祉サービス事業所における感染症等発生時の相互協力体制の構築や、保育所等が取り組む感染拡大防止事業への支援を行って参ります。

また、コロナ禍の影響を受けられた事業者に寄り添いながら、川内商工会議所及び薩摩川内市商工会をはじめとする各種商工団体と連携し、地域経済対策、雇用対策に取り組みます。

さらに、コロナ禍による影響を受けた方々を会計年度任用職員や道路維持補修等業務従事者として雇用するなど、市としても可能な限りの生活支援を講じて参ります。

少子化対策・子育て支援につきましては、新たに子育て応援券を支給するとともに、令和デザイントークでいただいた関係者からの御意見を踏まえ、産後ケアに関する支援内容の充実を図ります。

人口減少対策につきましては、住宅取得・リフォーム補助、空家利活用による移住促進や、若者の市内定住を促進する奨学金返還支

援など総合的な移住・定住対策や市内中小企業等が行うUIターン希望者等の人材確保の取組への支援などにより、急激に進む人口減少の緩和を図って参ります。

農林水産業の振興につきましては、就農初期段階の青年就農者に対する支援や、農福連携による耕作放棄地の活用等に対する支援の拡充などにより、担い手の確保・育成、耕作放棄地の発生の抑制を図ります。

また、甌島地域の農林漁業者に対しては、販路開拓等の取組について新たな支援を行います。

旧鹿児島県農業開発総合センター果樹部北薩分場につきましては、新規就農者育成拠点施設として整備に着手します。

先月二十九日には、令和三年度鹿児島県茶業振興大会実行委員会が開催され、本年十一月二十八日に「二〇二一かごしまお茶まつり in 薩摩川内」が開催されることが決定されました。引き続き、茶業農家や関係機関・団体と連携を図りながら、諸準備に取り組んで参ります。

経済産業、観光・スポーツの振興につきましては、昨年九月、九州大学大学院芸術工学研究院と締結いたしました「SDGsを通じた持続可能なまちづくりに係る連携協定」に基づく各般の取組を進め、「川内港久見崎みらいゾーン」を含む川内港周辺を「循環経済

(サーキュラー・エコノミー)都市モデル」とすべく、これまでにない先駆的な産業立地に挑戦して参ります。

なお、次世代エネルギーにつきましても、国の二〇五〇年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略の実現に向けて、再生可能エネルギー事業者の誘致や関連産業の活性化を図ります。

本年八月には「川内駅コンベンションパーク」がグランドオープンする予定であり、コロナ復興のシンボルとして、川内駅を中心に薩摩川内市全体の賑わい創出に取り組むとともに、物産販売では、平成二十八年から本市に受け入れているANAグループ常駐駐在員を活かした販路拡大、シテイセールス活動を展開して参ります。

次に、男子バレーボールアルゼンチン代表チーム事前キャンプ受け入れ及び全国市町村交流レガッタ薩摩川内大会につきましても、実施に向けた準備を進めながら、コロナ禍後を視野に、旅行誘客、イベント・コンベンション誘致の強化を図ります。

なお、平成二年に供用開始した薩摩川内市総合運動公園につきましても、長寿命化を目指した十カ年の施設修繕事業に着手いたします。

甌島においては、鹿島支所改修による「(仮称)甌ミュージアム恐竜化石等博物館」の整備に着手するとともに、公園のトイレ施設について充実を図ります。また、青瀬地区においては、道路運送法

の自家用有償旅客運送制度による新たな交通システム「青瀬あいのり交通」をモデル的に導入いたします。

このほか、八路線十六系統、四エリアで運行している本市全体のコミュニティ交通につきましても、利便性向上と経営改善に取り組んで参ります。

防災・減災・国土強靱化につきましては、川内川河口部の高潮対策や、市街部未整備区間の堤防強化等の事業促進に向け、国への要望を引き続き行って参ります。

なお、昨年七月の集中豪雨による隈之城川、百次川及び勝目川の堤防決壊や越水への対応につきましては、浸水被害を軽減するため
の排水対策事業等を実施いたします。

昨年十二月に着工した、南九州西回り自動車道の薩摩川内水引インターチェンジ（仮称）湯田西方インターチェンジ間の整備につきましては、一日も早く完成するよう、官民一体となって国への要望活動に取り組んで参ります。

重要港湾川内港につきましても、唐浜地区水深十二メートル耐震岸壁整備の国直轄による早期事業化に向け、国への要望を強化して参ります。

消防行政につきましては、通信指令センターの共同運用に向けた準備を進めるとともに、隊員の安全確保や機動性等の向上を図るた

め防火衣一式を更新するなど、市民生活の安全・安心の確保に努めて参ります。

教育振興につきましては、GIGAスクール構想を推進すべく、令和二年度に児童・生徒一人一台のタブレットや高速大容量の通信ネットワークの環境を整えたところであります。令和三年度からは、タブレットを活用し、子どもたちが主体的に学習する「新たな学び」の実現に取り組んで参ります。

以上、施策の概要を述べましたが、令和三年度当初予算案につきましては、私の選挙公約「未来創生十ビジョン」に掲げた新型コロナウイルス感染症対策、コロナショック対策、妊娠・出産・産後ケア支援などに意を用いて編成いたしました。

また、市長就任時から、市の最も大きな役割は「将来ビジョンの実現」と「市民サービスの向上」であること、市民の皆様に取り添い、その声に真摯に耳を傾けて対話をする広聴の実践こそが薩摩川内の未来創生の実現に向け、何より重要であると申し上げて参りました。

広聴・新ビジョン調査プロジェクトチームを中心に、令和デザイントークの開催や、新たに設置いたします「薩摩川内未来創生ワークショップ」の運営等を通して、幅広く市民の意見を伺い、令和六年度の市制施行二十周年に向けた円滑な事業推進と、令和七年度を

初年度とし、市制施行三十周年に当たる令和十六年度を目標年次とする第三次総合計画の策定に反映させるとともに、「薩摩川内の未来創生」に全力を傾注して参ります。

三 予算の大綱

国におきましては、国民の命と暮らしを守るため、感染症拡大防止と社会経済活動の両立を図り、骨太方針二〇二〇に掲げられている主な施策項目及びそれを具体化する成長戦略の実行計画を踏まえ、ポストコロナの新しい社会を作っていくとしております。

本市におきましても、健全で持続可能な財政運営に努めながら、人口減少、少子高齢化などの課題や新型コロナウイルス感染症対策などの新たな行政課題への対応を行っていく必要があります。

こうしたことから、令和三年度当初予算案においては、総合計画を踏まえた令和三年度予算編成方針に基づくとともに、総合戦略の推進、未来創生十ビジョンの実現、新型コロナウイルス感染症への対応、国の三次補正に留意しつつ、「健全で持続可能な活力創出予算」を編成したところであります。

これらの結果、一般会計当初予算の規模は、前年度当初予算に比べ、二・八パーセント減の五百二十六億七千万円となりました。ま

た、温泉給湯事業など九つの特別会計は、合計で二百五十八億九千五百八万円となったほか、水道事業など三つの公営企業会計予算案につきましても提案いたしております。

なお、令和三年度においても、年間予算として編成したところでありますが、特定離島ふるさとおこし推進事業など採択状況を見極める必要のあるものにつきましては、六月期の補正予算案として提案する方針でありますので、御理解をお願いいたします。

四　　む　　す　　び

今定例会におきましては、薩摩川内市職員の特殊勤務手当の支給に関する条例の一部を改正する条例案をはじめ、各議案の御審議をお願いいたしております。

提案いたしました各議案の細部につきましては、主管部局・課長等から説明させますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。私の施政方針といたします。